

住み続けたい まちづくりへ前進

医療・福祉・教育施設を充実

9月定例会議

9月定例会議は、9月1日から8日までの8日間の日程で行われました。町長から提出された議案は、28年度会計の決算認定のほか、29年度補正予算など12件が提出され、全議員の賛成で原案どおり『決定』しました。一般質問では3名の議員が登壇し、町の対応や考えをいただきました。



新校舎の完成を喜ぶ 江刈小学校児童の皆さん

監査委員の意見

28年度決算は全ての会計が黒字です。各種財政指標も改善され、財政運営の健全性が維持されています。社会情勢の変化の影響による、町税などの収入の落ち込みを見据え、今後も健全な行政運営を望みます。

景気の回復が地方まで浸透していない中、普通税と国保税を合わせた町税全体の徴収率は昨年度を上回りました。職員の徴収取り組みに対する創

意工夫の成果が表れています。

ここ数年、新規事業を起ち上げるなど、町民のニーズを捉えスピード感を持った町政運営を発揮している姿勢が強く感じられます。

諸事業を進める中、将来負担比率、実質公債費率は県内自治体の中でも上位にランクするなど、堅調で計画的な財政運営が堅持されている決算内容です。

決算の概要

28年度の全会計の総支出額は、106億1489万円、前年度比4億6540万円、4.6%増加しました。

一般会計の支出額は、71億3096万円、前年度比7億3452万円、11.5%の増加です。養護老人ホーム葛葉荘・江刈小学校改築など、大型ハード事業の実施が増額の主な要因です。

5特別会計の支出総額は、34億8393万円、前年度比2億6912万円、7.2%減少しました。

28年度は、医療・福祉・教育施設の大型ハード事業が完成するなど、安全

財政健全化判断比率は「健全」を維持

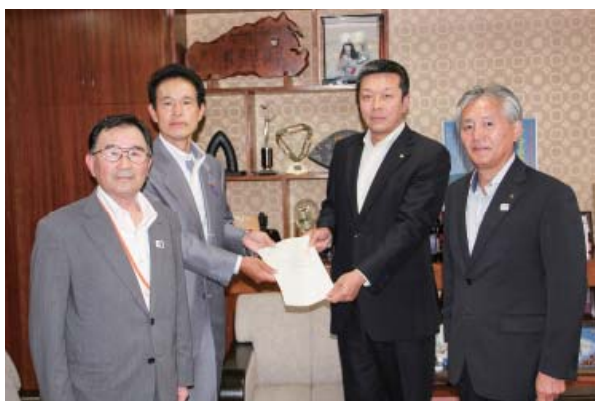
「財政健全化法」に基づく、28年度の一般会計、特別会計、第3セクターの決算を含めた各指標は、いずれも基準を下回りました。

●健全化判断比率

各指標	28年度	27年度	比較
実質赤字比率 (15%)	赤字なし	赤字なし	-
連結実質赤字比率 (20%)	赤字なし	赤字なし	-
実質公債費比率 (25%)	5.0%	5.8%	△0.8
将来負担比率 (350%)	なし	なし	-

*各指標の()内の%は早期健全化の基準で、数値が低いほど健全な財政運営になります。

*将来負担比率は、将来負担見込額が充満可能な財源の額を下回り、比率なしとなりました。



町長に意見書を提出する監査委員

●資金不足比率

経営健全化基準は20%で、対象となる簡易水道事業、農業集落排水事業いずれも資金不足は発生していません。

28年度決算状況

会計名	収入	支出
一般会計	83億723万円	71億3096万円
国民健康保険事業	11億9820万円	11億5928万円
簡易水道事業	5億756万円	4億8652万円
農業集落排水事業	2億1537万円	2億632万円
後期高齢者医療事業	7206万円	6859万円
国保病院事業 (収益的収支)	10億4288万円	8億8139万円
(資本的収支)	6億7215万円	6億8183万円
合計	120億1545万円	106億1489万円

※簡水・病院事業会計の決算は7月定例会議で認定しましたが、特別会計の決算額に含めています。

で安心な住み続けたいまちづくりに向けて、さらに前進した事業が行われました。